

教職員からのメッセージ

建設・都市システム学系 松本幸大

東海地方も梅雨入りし、雨が降る日が続くようになりました。湿度も高く、快適とは言えない日が続きますが学生の皆さんはどのように過ごしているのでしょうか。さて、今日は私の技科大学生時代を振り返りつつ、今の大学生活を考えてみようと思います。

ちょうど20年前に高専から編入学して来ましたが、同じ課程に同じ高専出身の学生はいなかったこともあり、少し孤独を感じつつ豊橋にやってきたことを覚えています。高専では40名前後のクラスで、共に過ごす時間も長く、いつの間にかその環境が当たり前のよう感じていたような気がするので、新天地での生活は楽しみと不安がバランスよく混じった心境でした。

入学手続き等を終えた後は、全体・課程ごとのガイダンスに出席することになります。この内容は全く記憶に残っていませんが、集合の際にA-101とA1-101(だったかな)とを間違えて部屋で待っていて、余りに学生が少ないことから部屋を間違えていることに気付いて、急いで正しい部屋に移動したことだけは今でも覚えています。ガイダンス資料に教室の地図も配布されていたのですが、たぶんよく見ていなかったのでしょうか。説明書はちゃんと目を通しましょうね、という良い例で、入学早々やらかしてしまうことでした。その後、課程別オリエンテーションと称して、建築・都市システム学系(当時は建設工学系)ではクラス全員が貸し切りバス2台で明治村(愛知県犬山市)へ向かいました。といっても片道約2時間半のバス移動で現地滞在時間は約3時間ですので、ほとんどバスの中で過ごしているような状況です。明治村で過ごした時間もこれまた余り覚えていないのですが、バスの席が偶然近くになったクラスメイトとは、その後も、また今でも話しやすい仲となったわけです。現在の教員の立場では、このバス旅行は半強制的に仲良しを作る時間として一定の意義があると思っています。一方で、新年度の各種催しは、本年度は残念ながら開催することができなくなり、クラスメイトの顔もほとんど見ないまま過ごす学生さんも多いのではないかと思います。当時の自分が過ごした新学期と比べると、新たな学生生活の調子が乗り切れない状況になるのではないかと思うところで、普通の状態がいかに幸運であったかを思い知らされます。ただ、当時との大きな違いは、通信ネットワークや個人端末(当時はケータイで画面もカラーになって感動したくらいの時期で、メール・電話は従量料金が普通でした。もちろんタッチパネルはありません。)の充実があり、同じ所属・地域の人などと簡単に情報交換ができる環境が整っていることがあるのかなと思います。現在のインターネット配信の講義もネットワークインフラやそれを活かしたClassroomのようなシステムがあつてこそ実現可能な方法ですが、同じ空間・時間を過ごすことは出来なくても履修科目を通して積極的に教員と意見交換や質問をすることで、今の利点を活かして学生生活の充実を図ってもらえることを祈っています。私も前期に講義を持っていますが、TAの学生さんと協力して課題の採点やコメントを通して、この瞬間の学生が不利にならないよう、きちんと学んでもらえるように心掛けています。ところで、課題の出来は例年に比べると(控えめに言っても)余り良くないのですが、きっとこれまでであればクラス内の得意な学生さん

が周りに教えていたりしてくれていたのが、今年はそれが難しくなったことが原因の一つではないかと思っています。それが良いか悪いかは判断が難しいですが、簡単に聞くことができない現在は、自分の力で勉強・理解して課題に取り組むことが必要になっていると言えます。学生さんにとっては厳しい状況とも考えられますが、努力は必ず自分のためになると思いますので、前向きにとらえて自学の癖をつけてもらいたいと思います。授業で扱った内容をすべて覚えておくことは不可能だと思いますが、自分で調べて課題を克服すれば、すぐに思い出せなくとも、どの本のどの部分に書いてあるかは何となく覚えているものですので将来必ず役に立つはずで、この境遇を機会に自分の引き出しを増やすような勉強をしてもらえればと思います。

さて、何やら全体に暗い話が多くなってしまいましたが、紅葉の頃には学生さんの表情を確認しながら講義・研究を共に進めていくことができることを祈っています。